

科目名	経営分析 B Business Analysis B						
科目担当者	出山 実 IDEYAMA Minoru						
単位数	2	配当年次	2年	授業形態	講義	開講学期	後期
履修学部・学科 [区分]	経営学部・経営学科 [専門教育科目 専門科目]					ディプロマポリシーとの関連	(1)(4)
授業の概要	SDGs 時代における企業活動は、企業倫理と持続可能性に関する配慮を欠かすことができません。企業倫理の視点からは、どのような社会哲学を持って、どのように誠実な企業活動を実現していくのか。また、持続可能性の視点からは、いかにして個々人、組織、社会コミュニティ、自然環境との関係性を再構築していくのか。本講義では、企業倫理と持続可能性の視点から、どのように企業活動を分析、評価すればいいのかを検討します。具体的には、受講生同士で話し合いながら、企業活動を評価する指標を作成し、それを活用して企業活動を評価していきます。						
授業の到達目標	①企業倫理と持続可能性の視点から、企業活動を認識・分析・評価できること ②対話をしながら指標を作るプロセスを理解すること						
授業計画・内容	1	オリエンテーション					
	2	企業活動の変化の兆し：東日本大震災にみられた企業行動					
	3	企業倫理から評価する：経営哲学					
	4	企業倫理から評価する：信認の経営					
	5	企業倫理から評価する：企業統治・倫理法令遵守					
	6	企業倫理から評価する：新しいコミュニタリアニズムの実践①（基本文書、内部管理体制）					
	7	企業倫理から評価する：新しいコミュニタリアニズムの実践②（教育訓練、オープンネス）					
	8	持続可能性から評価する：人間の基本的ニーズ					
	9	持続可能性から評価する：環境の持続可能性原則					
	10	持続可能性から評価する：社会の持続可能性原則					
	11	持続可能性から評価する：持続可能性とビジネスモデルキャンパス①（マーケティング領域）					
	12	持続可能性から評価する：持続可能性とビジネスモデルキャンパス②（組織構造領域）					
	13	企業倫理と持続可能性の評価軸を作る①（環境領域）					
	14	企業倫理と持続可能性の評価軸を作る②（社会領域）					
	15	企業倫理と持続可能性の評価軸を作る③（統合指標）					
授業外学修 (事前学修)	事前に提示した資料（新聞記事や雑誌記事）をまとめてくる（1.5時間）						
授業外学修 (事後学修)	講義を受けて、内容について要点を整理し、該当する企業活動を調べる（2.5時間）						
成績評価方法・ 評価比率・到達 目標との対応	成績評価方法				評価比率		到達目標との対応
	①課題の提出 ②期末レポート				30% 70%		①② ①②
成績評価基準	秀：（評点 90 点以上）到達目標を極めて高い水準で達成している場合 優：（評点 80 点～89 点）到達目標を高い水準で達成している場合 良：（評点 70 点～79 点）到達目標を一定の水準で達成している場合 可：（評点 60 点～69 点）到達目標を最低限の水準で達成している場合 不可：（評点 60 点未満）到達目標に達していない場合						
教科書							
参考文献							
その他	<どのような学生の受講が望ましいか> ・会計や CSR の分野に興味がある学生 ・将来、経理・財務担当者になりたい、金融機関や調査会社に努めたい学生 <あらかじめ受講して欲しい科目> 会計学、簿記論（or 上級簿記）、経営分析 A、初級ビジネスゲーム <併行して受講して欲しい科目> 財務諸表論、管理会計論、原価計算論、上級ビジネスゲーム						